愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	教育課程論（幼・小）		
担当者(Instructors)	武 寛子	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本授業では、教育課程の意味と運用の理解を図ることを目的とする。具体的には、教育課程の意味を学力が学習指導要領、カリキュラムなどと関連させながら考えられるようになることを目指す。 教育課程の歴史や諸外国の教育事情を把握する。教育課程を構成する内容として、個性化教育、総合的な学習の時間、カリキュラムの編成および評価などを取り上げてさらに理解を深める。 最後に、現代社会における開かれた教育課程について考察を深める。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	本授業は講義形式で行う。授業内容に関する課題を毎回の授業の中盤と後半で提示し、課題に取り組むことで学生との双方向的な学習を図る。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	近代における教育方法の歴史	近代における教育方法の歴史について理解する。	□
第2回	学習指導の方法	様々な学習指導の方法について理解を深める。	□
第3回	学習集団の編成と指導方法	学習集団の編成と指導方法の関係性について整理し、効果的な指導方法について考察する。	□
第4回	教育課程の意義	教育課程を編成する過程において働く様々な社会的諸力を批判的に考察する。	□
第5回	教育課程と法律	教育課程と法律との関係性について整理する。	□
第6回	学習指導要領の変遷	学習指導要領が社会の変化を受けてどのように変遷したのかを考察する。	□
第7回	「総合的な学習の時間」の歴史	「総合的な学習の時間」の歴史について整理する。	□
第8回	カリキュラム・マネジメントの意義と定義	平成29・30年改訂学習指導要領が求める「学校全体のカリキュラム・マネジメント」について、「社会に開かれた教育課程」との関連や、その趣旨と目的、内容を概観する。	□
第9回	カリキュラム・マネジメントの理論	平成29・30年改訂学習指導要領が求める「教科のカリキュラム・マネジメント」についてその趣旨と目的、内容を概観する。	□
第10回	学校経営とカリキュラム	学校経営の側面からカリキュラムの重要性について理解する。	□
第11回	カリキュラムの開発と編成	良い授業とはどのような要素によって構成されるのか考察し、授業設計をする上でのカリキュラムの開発と編成について理解する。	□
第12回	カリキュラムの評価	カリキュラムを評価するにあたり、どのような視点があるのかを理解する。	□
第13回	アクティブ・ラーニングの実践	平成29・30年改訂学習指導要領が重視する主要な学習手段である「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」について概説する。	□
第14回	現代社会における教育課題と学習指導要領	現代社会における教育課題について整理し、学習指導要領がいかに影響を受けてきたのかを考える。	□
第15回	社会に開かれた教育課程	これまでの授業内容を概観し、教育課程をめぐる諸課題を改めて捉え直す。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

毎回の授業時に提示する課題について、授業中に取り組み、授業終了時に提出する。その課題解答に関連した事後学習を行う（2時間程度）。事前学習として、次回のテーマに関するテキストの該当頁を予告し、事前に目を通す（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回の授業でリアクション・ペーパーの記入を通じて、学生の理解度を把握する。リアクション・ペーパーの内容を、次回の授業においてフィードバックを行う。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	学習指導要領等に基づいて各学校で編成される教育課程について、その意義や編成方法について習得するとともに、幼稚園、小学校の実情に応じてカリキュラム・メネジメントを行う意義と方法について理解することができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	教育課程をどう編成し、具体化していくかを思考して自分の考えを豊かに表現し、よりよい方法を選択する判断力を身に付けることができる。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	学校や園の一員として教育課程について考え、実践することを想定し、学校や園で主体的協働的に関わることができる幅広い人間性を体得することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			60%	40%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回の課題（リアクション・ペーパー）（40%）と定期試験＝授業内試験（60%）で総合的に評価する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	山﨑 保寿 （2019）『未来を拓く教師のための教育課程論』学陽書房	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	「小学校学習指導要領」（平成29年3月告示　文部科学省）	
2	「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示，文部科学省）	
3	田中耕治編（2018）『よくわかる教育課程（やわらかアカデミズム・（わかる）シリーズ）」ミネルヴァ書房	
4		
5		